

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102810
法人名	社会福祉法人 敬友会
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	岡山市南区大福1200-2
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 24 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3370102810-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 9 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様で洗濯物を干すところから畳むところまで行い、洗い物をしていただいたり家事を分担して行ったりしています。中庭の畑に季節の苗を植えたり、水やりや生け花の水かえ、テレビを見たり、新聞や広告・雑誌などを読まれており、なるべく在宅にいた頃と同じような生活が送れるよう家庭的な雰囲気や大事にしております。四季折々の飾り付けを職員だけが作るのではなく、入居者様と一緒に作り、時には季節に合わせた食事を提供させていただいたり、季節感を損なわないように気を付けております。施設にはセラピー犬がおり、動物と触れ合うのが好きな方がセラピー犬をみかけては「こっちにおいで」と話しかけており、一つの楽しみともなっております。連携医療機関と連絡を密にとっており、急変時にも早急に対応していただいております。職員はベテランから新人までおり、研修や勉強会などを通し共に成長できるように心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ベテランの職員がいて、人育てを心底から誓い、人が人を支えていく理念に入職から(セルフマネジメント表)を使って自己形成に努めている。そのおかげかCS(顧客満足)に対応するだけにとどまらず、医療の面(2名の看護師の在任)に心配りが生まれ、「居室に花を添えて欲しい」との家族の意向から花壇に花を植え、知らず知らずのうちに職員の喜びに繋がりが、面会が、家族の安心対応の基盤になっている。職員が、してあげたいことの思いや意向を、直ぐ実践している事も、管理者がさりげなく伝えただけで、職員の心に訴えているのでは！と、職員の自然とアクションをする姿に窺われていた。看取りも同様で、職員のハートがしみじみからワクワク感に移り変わっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスで話し合いを行い、意見を出し合っている。勉強会や研修等で学んでいる。	玄関の正面に法人の理念を掲示している。職員は個々に、理念に沿って事業所の目標を作成し、月2回のカンファレンスで職員の気付きと利用者の立場からの意見を求めて理念と照らし合わせながら、理解を深めている。新入職者には、半年ほど「フレッシュマンノート」を手書きにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦において地域への行事参加や運営推進会議への集まりなどが出来なくなっているが、運営推進会議を書面に切り替えることや、「ひまわり新聞」を地域の回覧板に掲載していただいたりし、地域の中で繋がりを保つ努力を行っている。	町内会に加入しており、会報誌を回覧板から地域の情報共有をしている。地域の医療機関主催の同業他社の交流会である絆カフェに参加を続けている。利用者と日頃から散歩や自動販売機に買い物に行く時等、地域の交流の時間が生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ひまわり新聞や運営推進会議の議題などを地域の方へお配りし、認知症の理解をしていただけるようにしている。以前、入居者が離脱した際、ご近所の方が協力して下さいました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のアンケートを活用し、家族の方や地域の方が現在、何を必要とされているのか意見を聞き、発信するように心掛けている。	開催の案内を書面にして、町内会に手渡しに行く。開催自体は隔月で書面としている。市・包括支援センター職員や町内会長・民生委員・他の事業所・全利用者が参加し、2か月に1度開催されている。	フィードバックする事と、新しいメンバーの発掘をされては如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの問い合わせや提出書類については迅速に対応している。	窓口は、グループ長と管理者。グループ長は、普段から直接行政の窓口に出向くので、何でも気軽に連絡・相談が出来ている。	市町村への窓口を管理者に広げて、管理者が、直接の意見を聞ける機会を持てるようにしては如何でしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に利用者の居場所の確認を行い、鍵をかけなくても良いケアを行っている。カンファレンスで3ヶ月に1度、身体拘束についての勉強会を行い、知識を深めている。その中で意見交換を行い知識の共有にも努めている。	年4回の研修と事業所内の事例検討形式のカンファレンスで、「何が拘束かな？」と皆で気付き合う様にして、拘束をしないケアへと導いている。また、職員がセルフチェックする為の「虐待芽ばえチェック表」を活用し、拘束とは？と抜き打ちテストを行い、良い緊張感を与えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時や入浴時などに利用者の身体状況を確認するなど職員同士が注意し合える環境を作っている。カンファレンスで虐待についての3ヶ月に一度勉強会を行い、知識を深めている。その中で、意見交換を行い知識の共有にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学んでいる。必要な利用者には活用できるよう援助している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には責任者が同席し、わかりやすく説明をし、利用者様やご家族様に納得していただけるように努めている。後日でも疑問があれば随時お聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など気づいたことは何でも話していただけるように配慮している。運営推進会議議事録を玄関に置いており、来訪者がいつでも閲覧できるようにしている。	家族には毎月手紙で、運営推進会議の議事録や近況を報告している。面会や電話やメール等で意見を聞き取り易い。花を飾りたい家族の意向を、『要望の実現+駐車場から面会するという面会テクニックの獲得+花壇に飾って建物が華やぐ』の三方良しとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中に気づいたことはカンファレンスで話題にし、解決している。従業員相談窓口が設置されている。	私的な事は、ゲートキーパー役の職員を介して管理者に報告される。勤務練りは、話し合っ調整し合える風通し良さがある。また、言いにくい事も面と向かって言える風土も培われている。法人本部も、各事業所と連携を取って、出勤場所や働き方を調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員との面談(年1回)や日頃から職員の声に耳を傾けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修やキャリアパス研修参加など研修を行っている。入社時には、新人研修にて法人全体でサポートをしている。カンファレンスでの勉強会で共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターと連絡をとったり、近隣のグループホームと推進会議の議題の交換を行っている。また、法人内の他事業所への見学を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期なので表情なども特に気をつけながらお話を聞くようにしている。また、職員同士で様子を報告し合う。日常の中で話されている要望等に耳を傾けながらケアプラン作成時に反映させている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にはご家族の方に積極的に話しかけ、要望等には、すぐに対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者のアセスメントや日々の生活の中で意見交換を行い、安心して生活できる環境を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんだり、仕分けを行ったり、花の手入れ、また身の回りの整理整頓など出来ることは自分でしていただいている。また、物作りも職員・入居者と力を合わせて行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回ご家族への手紙を送付し、近況報告をしている。メールや電話で適宜連絡をとり、近況報告を行っている。また、面会時にもその都度繰り返し近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へ行きたいという希望には、可能な限り応えている。ご家族様にも協力していただき、なじみの場所へ出かけることが出来たり、ご友人にも訪問していただけていたり。現在はコロナ禍にて見合わせている。	家族や面会客から、本人の馴染みの物を持って来て頂く事を意識して取り組んでいる。花壇の手入れや日向ぼっこの時間を通じて面会も続けている。手紙やハガキもやり取りしており、馴染みの人との関係が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で談笑できるように時折職員も間に入り、落ち着いて話をしている。食事以外の場面では席を固定せずにしており、お好きな利用者様同士で交流できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、何かあれば相談に応じることをご家族に伝えている。また、相談に応じるように努めている。退去後も施設を尋ねてきて下さるご家族様がいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望を聴取しにくい場合でも、日々の生活の様子や表情をよく観察し把握できるように努めている。些細な言葉でもしっかりと傾聴をし、希望をくみ取れるよう努めている。	食事やおやつなどの些細なつづやきにも耳を傾け、思いを把握しようとしている。1対1になる場面で把握をし易い場面であり、特に入浴の時間が聞き取りやすい。食べたい物や飲酒、聞きたい音楽等、伺った要望は、出来るだけ早く叶えようと努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にお聞きしている。ご本人だけでなく、ご家族からもお聞きしている。日常の会話の中で新たに教えていただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの行動を把握している。変化があれば職員間で申し送り、対応している。個別に出来る事を模索し職員間で話し合い能力の維持に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時、出来るだけ話し合いの機会を持ち、要望・意見を集め、カンファレンスで検討してケアプランを作成している。また、多職種とも連携をし、よりよい介護計画の作成に努めている。	ケアプランは、入居時と二週間後、三ヶ月毎、随時と策している。モニタリングは毎月行う事で、プラン変更する時も、蓄積した利用者・家族・担当職員・医師・薬剤師・看護師などから受けた意見を活かしたプランとして反映している。資格取得も法人で積極的に費用面で応援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態の変化などを記録している。その内容をもとにして、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力はしているが、多機能とまではいかない。家族から要望があれば、可能な範囲で受けられるサービス提供場所を検討し、外部と連携を行い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様にもケアに参加していただけるような環境づくりを行っている。音楽療法や訪問理容、地域ボランティアなどを活用している。現在コロナ禍の為中止、もしくは制限を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診での対応。必要な際には、協力病院への紹介や入院をお願いしている。	契約時に家族からかかりつけ医を選んで頂くが、殆どの方が提携医に転医される。提携医は月2回往診があり、昼夜を問わず365日の対応。他の医療機関にも、原則職員が付き添う。必要な方は訪問歯科も来所。歯科衛生士は毎週来所する。提携医とは、何でも話せる関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば看護師に報告・相談し、早急に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には電話にて、家族や病院関係者から利用者の状態をお聞きするようにし、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より家族に対しての説明の場を設けるようにしている。家族には施設で出来る範囲を説明し、今後の対応を協議している。	「看取りは、暮らしの一部である」と、事ある毎に説いていて、家族・医療・職員が協力している。終末期には、家族やパートナーが主に関わられる様に、背中をそっと押してあげられる言葉かけをしている。看取った時は、「お疲れさまでした」「ケアさせてくれてありがとうございました」と心の中で、利用者と自分に言葉をかけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、カンファレンスや研修で繰り返し確認している。また、緊急対応フローを作成し、速やかに連絡できる体制を構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施し、消防署の指導を受けている。マニュアルの確認や職員同士での話し合いも行っている。地域の班ごとに防災組織を立ち上げている。	年2回、火災と水害と地震の訓練を、昼夜を想定して行っている。地震対策として家具を固定している。2階に垂直避難出来る様にもしている。備蓄は、水と食料を三日分保管してある。連絡網は、グループラインで一斉送信できる様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉や口調で話しかけるよう心がけている。接遇の研修機会を持ち、向上を図っている。排泄、入浴介助の際にもプライバシーに配慮した声かけを行っている。	呼称は、苗字に「さん」を付けている。利用者が失敗して「ごめんよう。手間かけるなあ。」との言葉に、周囲に気付かれない様に目を合わせて、足をさする等して「大丈夫ですよ」と言葉を返して片づけを介助する。年間計画で、職員が講師役となる接遇研修を行い、職員に意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で否定はしないように心がけている。表情や仕草などからも利用者を理解するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個人ごとの要望に沿った援助が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際には、希望者には化粧をしている。出来る限り更衣の際の服や外出時の服装は、自分で選んでいただくようにしている。服が汚れてしまった場合にはきれいな服に更衣していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理をしたり、オープンキッチンのため、楽しそうに眺めている方もおられる。また、食後の洗い物なども利用者と協力して行っている。食事イベントや外出の際には、食べたいものをお聴きしている。	主にケータリングだが、月2回は手作りの食事を提供している。その際は、職員が買い物をして、旬の食材を選び、土用の丑の日の鰻が好評。テレビに映る食べ物を食べたいという意向も、手作り食事デイに提供し、夜食にカップ麺もあり、差し入れもノンアルコールビールやチョコレートもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日チェックしている。体調の変化や食事が食べにくくなったなど様子の変化が見られれば、食事形態を変更したり、体調に合わせたものをお出ししている。食事量が少ない方には補食や高カロリー一食など食べやすい物をお出ししている。月1回の体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にはその人の応じた方法で、必ず口腔ケアを行っている。誤嚥の危険性の高い方には毎食前にも口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自分でしていただいている。失敗のないよう排泄パターンを把握し、その方にあった時間に誘導できるようにしている。尿量測定を行い、その方にあったオシメやパットを検討し使用している。	部屋毎に、車いすでもゆったり入れるトイレがあり、排泄の自立に役立っている。排泄チェック表を使用してパターンを把握し、個人に合わせた誘導も行い、トイレの帰りなど歩行訓練やパターンゴルフも日課として、筋力強化しながら、トイレでの排泄が継続できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり取っていただくために、好みの飲み物を用意している。便秘の際には、乳酸菌飲料を飲んでいただく、ヨーグルトなどを食べて頂くなどしている。重度の方でも出来る限り離床を行い腸の動きが良くなるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好みの頻度、回数、時間に入浴できるようにしている。入浴剤を使用して、見た目や香りを楽しんで頂いている。	週2回提供していて、清潔感を保つため、お湯は一人一人汲み替え、好みの温度で入浴している。入りにくい利用者にはリフトを使用して、浴槽に浸かれるようにしている。嫌がる方には足浴や雑談から、その方の気の向く様な話題から関心を持って頂くようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や湿度を計測し、管理している。リラクセス出来る環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には申し送りを行い、状態の変化を確認している。誤薬防止の為、内服援助の際には、職員間で2度確認を行っている。落薬に気をつけ、服薬する際にはマニュアル通りに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事や気分転換のドライブなどを行っている。職員と一緒に歌を歌ったり、花の手入れをしたり、体操を行なうなどしている。生活歴やご家族様からの聞き取りより以前されていた塗り絵等が実施出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良いときには近所を散歩している。希望がある時には近くの自動販売機に飲み物を一緒に買いに行っている。出来る限り本人の要望に応えるよう取り組んでいる。	公園や近くの自動販売機に散歩に出かける事が、変わらない日課となっている。テラスの水やりをしたり、町内を車で一周したり、ドライブがてらに受診をして過ごしている。また、リビングに隣接するウッドデッキで日光浴やお茶を楽しみ、気分転換を図っている。洗濯物を干したり畳んだりする事を楽しみとしている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替払いではあるが、希望される場合は自分でお小遣いを管理されている。買物の支払いは、自分でしていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在希望される方はおられないが、電話は自由にかけたいはくことは出来るようにしている。携帯電話を所持し、自由に連絡をとれるようになっている。また、使い方が分からないようであればその都度声かけを行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を生けたり、七夕 ひな人形を飾るなど季節感を取り入れる工夫をしている。また、壁を飾り付け季節感を失わないようにしている。中庭には季節の野菜などを植えてその季節の物を収穫できるようにしている。	玄関や居室の窓辺に花が生けられ、広いリビングの天井は太い梁が天窓に照らされて清々しく開放的。職員と共に毎月季節の飾りをフロアの壁に飾って季節の移ろいを感じている。職員の調理や洗濯をしている姿に和やかな表情で目をやって、愛犬のセラピードッグが、ちょこちょこ気ままにその目を遮っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やホールなど利用者がお気に入りの場所で過ごすことができるようにしている。中庭のウッドデッキでお茶を飲んだり、園芸を楽しんだりもできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、本人が使っていたものを持ち込んでいただき、使い慣れたものやなじみのものが身近にあるように家族にも協力をお願いしている。仏具を持って来られている方もおられる。	フロアで職員とおしゃべりする事が好きで、フロアに自然と集まる。居室の飾りつけはシンプルでスッキリで居心地が良く、広々したトイレと洗面台とベッドに、転倒防止を施している備え付けのタンスがある。利用者の一人は、職員から提供された人形を我が子のように愛玩している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	電気をつけていないと眠れないと言われる方には電気を点灯して休んで頂いている。共有スペースでは、安全に気をつけながら自由に過ごして頂いている。		